

オオスズメバチ

札幌大学の森を検分しているの移動中、札幌大学研修センターのテニスコート脇の舗装路面にオオスズメバチが転がっていました。死んでいるわけではなく、盛んにもがいているのです。低温で飛べなくなったものと判断しました。すぐ近くの広い駐車場が冬場の雪捨場になっていて、まだ大量の薄汚れた残雪があり、おそらくこのハチはうっかりその上を飛んで、冷気にやられて活動力を減殺されたものでしょう。気温が上がるとまた飛ぶことができると思ひまして、そのままにしておきました。画像には2017年5月



11日13時20分と記録されていました。このハチは成体で越冬した女王バチです。この時期に営巣場所を土中や樹洞に探して、定めると一匹だけで、まずは小さな巣に卵を産み付けて働きバチ



を育てます。働きバチが増えてきますと、産卵だけに集中しまして、働きバチたちが、徐々に巣も大きくし、働きバチの数も増えてきます。秋口には500匹にもなるのです。

オオスズメバチは日本に棲むハチ仲間うちで最大かつ最強であります。体長27~40mm、40mmは女王バチで、27mmは働きバチ、雄バチはその中間の大きさです。働きバチは攻撃性が強く、刺されるとその毒性も強烈で、アレルギー体質の方は殺されることがあるので、敬遠してください。

生態については「永遠の零」で大ベストセラー作家となった百田尚樹氏の作品に「風の中のマリア」というオオスズメバチの働きバチを擬人化した小説がありまして、極めて正確かつ詳細に生態を知ることができます。

学術的な図書では「スズメバチはなぜ刺すか」松浦誠著があります。この本はオオスズメバチだけでなく、スズメバチ科全般について広く知ることができます。

昆虫少年時代にオオスズメバチはわが標本箱の中でも最高の存在でした。捕虫網でとらえて、ブンブン羽音をたてて暴れまくるのを、殺虫管(毒ピン)に入れ込むのに大汗をかき、達成感にひたつたことは懐かしい思い出です。小学校5年生で終戦後間もない時点で本格的な昆虫採集道具を買ってくれた両親に、改めて感謝の念が蘇ることになりました。

